

会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和8年度(2026)第2回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和8年(2026)3月12日 木曜日 14:00～16:00		
3. 開催場所	出雲市役所 本庁3階 庁議室		
4. 出席者	<p><委員></p> <p>浅野 紳 委員、飯國 吉子 委員、石飛 将泰委員、石橋 陽子委員、磯田 洋平 委員、伊藤 智子 委員、糸賀 俊樹委員、今岡 浩実委員、岩崎 陽 委員、大錦 清文 委員、奥山 真由美委員、嘉村 正徳委員、熊谷 美和子委員、黒松 基子 委員、小林 祥也委員、佐藤美也子委員、上代 真弓 委員、須谷 生男 委員、杉谷 亮 委員、高橋 幸男委員、名越 究 委員、濱村 美紀 委員、布施 礼子委員</p> <p>(50音順)(23名)</p> <p>欠席：伊藤 智子 委員、大錦 清文 委員、黒松 基子 委員、小林 祥也 委員、佐藤美也子 委員、須谷 生男 委員、杉谷 亮 委員、高橋 幸男 委員、濱村 美紀 委員、(9名)</p> <p><傍聴人> 0名</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 健康福祉部長あいさつ</p> <p>2 委員紹介(交代による入会) 今岡 浩実 委員</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 第9期計画における介護サービス施設等整備状況及び今後の方針について 資料1</p> <p>(2) 第2期 出雲市認知症施策推進計画策定の方針について 資料2</p> <p>(3) 第10期計画策定のスケジュールについて 資料3</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 介護人材の確保・定着に係る施策に関するアンケートの調査結果について 資料4</p> <p>(2) 第10期計画に係るアンケート(高齢者施設アンケート・ニーズ調査)結果について 資料5</p> <p>(3) 令和7年度の医療介護連携に関する検討会議実施状況について 資料6</p> <p>(4) 令和8年度から新たに実施する介護人材確保・定着に関する施策について 資料7</p>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

令和 8 年度 (2026) 第 2 回出雲市介護保険運営協議会会議録 (要旨)

1. 議事	
事務局	資料 1
事務局	資料 2
会長	計画は、包含したほうが良いと思う。
事務局	資料 3
会長	調査の結果が興味深い。
A 委員	長期的な視点で意見を言いたい。基盤整備にて介護サービス事業所を増やす動きがあったが、高齢者数は減っていく時代に入っていくと思う。この先の基盤整備の方向性をどのように進めていくのか。事業承継や法人合併、事業転換が起きると考えている。サービス整備の一つとして今までにない手段やそれに対する補助や方法を検討していく必要があると思う。新しいアイデアを考えていく必要があると思うが、市はどのように考えているか。
事務局	今のところ事業継承や合併を支援する制度はない状況である。一つの案として社会福祉連携法人を作って繋げていくような必要があると考えている。市としては、今後検討していく。
会長	市だけでなく、各委員について双方に情報を集めて市民の生活向上のために考えていきたい。
	【議事 (1)、(2)、(3) 承認】
2. 報告事項	(1) 介護人材の確保・定着に係る施策に関するアンケートの調査結果について 資料 4
事務局	資料 4
会長	1 頁の表とグラフの数値のずれは何か。
事務局	データ参照の数値を誤っており、お詫びと訂正をしたい。表の数値を参照して欲しい。
B 委員	I C T 機器を導入しない理由として、メリットを検討していないという理由が約 30%となっているが、検討する必要があるように感じる。メリットを検討していない人向けに見学会等はないのか。
事務局	介護現場革新サポートセンターしまね (カイサポしまね) を島根県が立ち上げた。このカイサポしまねが、定期的に成功事例や発表会を開いている。市も事業所に情報提供を行って導入を推進している。
事務局	(2) 第 10 期計画に係るアンケート (高齢者施設アンケート・ニーズ調査) 結果について 資料 5
事務局	(3) 令和 7 年度の医療介護連携に関する検討会議実施状況について 資料 6

C 委員	介護地域サービス事業者連絡会を代表して参加している。サービス提供者としてこのような協議会やリーダー研修等に参加して知識を深めたいと思う。また、現状として人材確保に苦慮しており、定着が難しく、定着できないから人材不足に陥るといふ悪循環が発生する場合がある。定着ができないと、中途半端に経験を積んだ職員が中途半端に別の職員を育成するといふ悪循環が発生する傾向にあると思う。最近少しずつ安定したように感じているため、IT補助金等を活用して良い循環を作れるように頑張りたい。
事務局	(4) 令和8年度から新たに実施する介護人材確保・定着に関する施策について 資料7
D 委員	財源の基金はいくらぐらいあるのか。
事務局	基金の残高は約20億積み立てている。
D 委員	令和8年度介護保険に関する予算概要が市の広報で見た。前年度より約2億円増になっているが、このような事業を追加したためか。
事務局	人材確保・定着の事業拡大の影響もあるが、物価高騰による人件費等の影響が大きいと思われる。
E 委員	出雲市版介護予防手帳「いきいき生活ノート」に期待している。エンディングノートが好評だった。ちょっとした事だが情報が広まる事が良いと思う。
F 委員	あんしん支援センターを代表して参加している。アンケート結果について、現状が分かりやすく良いと思う。初めて知ったこともある。アンケートが分かりやすくまとまっている事は良い事だと感じた。調査結果を活用して、あんしん支援センターでも地域支援に活かしたい。介護予防と骨粗しょう症の関係を考えたい。
G 委員	介護予防と骨粗しょう症の情報はありがたいと感じた。情報を活かして取り組んでいきたい。
A 委員	ケアマネ事業所支援の拡充をありがたく感じている。ケアマネは広い範囲をカバーしているため効率化支援のAI等を活用して負担軽減に繋げたい。 質問だが、奨励金は事業所が申請するのか。
事務局	申請は個人が行う。事業所にて周知をお願いしたい。書類の作成等について、ご協力をお願いしたい。
H 委員	この会議の内容を聞いて勉強になった。市の取り組みについてありがたいと感じている。この知識を事業所で活かしていきたい。また、資料が充実していて驚いた。様々な取り組みがあつて良いと感じた。

I 委員	いきいき生活ノートの名前を決める前に、名付けに関して意見したことがある。このような名前にしてもらって嬉しく感じる。
事務局	質問だが、人材確保のアンケートについて、求人活動に係る経費の助成が欲しいとあるが、その経費とは何か。また、このアンケート結果と人材確保・定着補助金拡充政策との整合性はあるのか。
I 委員	求人活動に係る経費とは人材紹介の斡旋会社への経費が代表的だと思う。それについての助成は現時点では実施する予定はない。アンケート結果だけではなく様々な意見を総合的に考慮して事業拡充を行った。
I 委員	現場の意見をよく聞いて政策を作って欲しいと感じている。
J 委員	未来を想像して10期計画を立てる必要があると感じている。専門学校卒業生の約6割が市内で就職し、市内で働きたい人が多い。認知症認定の育成コースを作った際に、ニーズ調査ではこのコースの希望が多いにもかかわらず、クラスで定員割れが起きた。介護現場が回らないため学校に来れない状況があるようだ。人材確保はとても重要な課題だと認識している。
K 委員	最近新規の依頼が少ない。沢山新規がおられるはずなのに同じ地区の事業所に聞いても新規が少ないと聞く。ケアマネへの依頼は、例えば地区割を決める等、平等に利用者が割り当てられるよう配慮して欲しい。地元ケアマネは地元の事業所へまずは利用者を案内して欲しいと思う。新規利用者がいなければ経営が厳しい。人材は補助金を出してでも確保したいと考えているため新規採用について補助金はありがたい。
L 委員	介護人材確保の補助金について、個人に対して採用年だけでなく続けて2、3年経過後にも15万円を支給する内容に驚いた。3点質問がある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・介護特別会計の保健福祉事業の意義を聞きたい。 ・社会全体が人手不足のなかPRや事業所の連携はどのように行われるのか。 ・資料1のサービス事業者の表について、認知症の事業所が廃業しているようだが、原因は何か。 <p>人材確保・定着が重要な課題であるため、基金を活用して政策を策定した。奨励金が定着のきっかけになると嬉しい。</p> <p>PR方法としては、市広報だけでなく各事業所に説明を行い、連携して周知していきたい。介護LIVEのホームページでも周知を図りたい。</p> <p>認知症デイサービスについては、グループホームに入られるため新規の認知症デイは減っている現状がある。市として検討していきたい。</p>
M 委員	この会議の資料が参考になってありがたい。介護の仕事をアピールするが、残念ながら介護職のネガティブなイメージがある。現場に行くと最近は道具の進化のお陰だと思うが、腰への負担は少ないように感じる。新規採用職員奨励金の15万円は魅力的な金額だと思うので周知したい。